

【資料 4-2】 附属学術越境センター・学際教育研究部の活動

① 附属学術越境センターの活動

学術越境センターのミッション

人間・環境学研究科では、令和5年度に、学術越境力を備え、総合知の創出と活用に貢献できる研究者・実務家の育成に向け、従来の3専攻（共生人間学専攻、共生文明学専攻、相関環境学専攻）を1専攻に統合・再編する形で改組し、新専攻（人間・環境学専攻）を設置した。一専攻化にすると同時に、学術分野間、産官学連携、国際連携の教育研究機会の創出と提供を通じて、修了後に社会の諸領域で総合知の創出と活用に貢献できる人物の育成を目指して、学術越境センターが設置された。

センターでは、以下のカリキュラムを行う

- ① 学生が主体的に実行できる柔軟かつ先導的カリキュラム 「学術越境プログラム」、海外留学や学際共同研究
- ② 他の専門分野の専門家と対話する教育カリキュラム 「研究を他者と語る」「分野横断中間発表」「学術越境科目」
- ③ 知識を持たない他者に専門知をわかりやすく伝える力を養成するカリキュラム 「教養教育実習」「学際研究演習」

これらの実践を通して、高度知識社会の中で、人文・社会科学の知と自然科学の知を融合するのに不可欠な、異なる分野間で専門的な深い対話をする力、すなわち学術架橋力を備えた人物の育成を目指す。さらには、学術架橋力を備えた人物が、学術界、産業界、行政組織、国際組織、高等教育組織などで総合知の創出と活用に貢献することで、Society5.0の実現という社会的需要に応えようとするものである。

学術越境センターの組織

- ① 学術越境コーディネータ センターの司令塔機能を果たし、新たな教育モデルへの挑戦と深い検証を行う
 - ② 学術越境サポーター 「研究を他者と語る」などの実施に際し、学生へのサポートを行う
 - ③ 学術越境プログラム推進担当 学術越境を志向する博士後期課程学生に、学術越境プログラムを推進する
 - ④ 大学院カリキュラム企画運営担当 研究科共通プログラムである「研究を他者と語る」などの企画・評価を行う
- (③④は、各講座の教員が兼担して行う)

学術越境プログラム

学内外教育組織・支援組織と連携しつつ、人社会と理系研究の融合を加速し、教養知を基盤とした「学術架橋力」を備え、将来、Society5.0に求められる人文・社会科学と自然科学の知を融合した「総合知」の創出と活用により貢献できる人物を輩出することを目的とする。

修士課程から5年間で博士学位の取得を目指す学生の中から、意欲と能力を備えた学生に対して多様な支援を行うもので、2つのフェイズからなる。

◆フェイズ1-支援プログラム

応募資格：人間・環境学研究科 博士後期課程進学を検討している修士1回生

修士課程の学生が、分野連携教育研究や産学連携教育研究、国際連携教育研究などの学術越境研究へと展開するための挑戦的な準備活動に対して、修士課程在学中に行う支援プログラム。学生は、自身の問題意識に基づき、指導教員や学術越境コーディネータの助言を受けながら、博士後期課程における学術越境実践を含む研究活動の計画立案とプロポーザルの提出を行う。

◆フェイズ2-支援プログラム

応募資格：人間・環境学研究科 博士後期課程進学を検討している修士2回生

博士後期課程に在籍する大学院生の研究活動を支援するプログラム。学術越境的な研究、産官学連携、国際連携が必要な研究活動に特化している。学生は、審査を経て選ばれた研究計画を実践する。実際の研究活動の遂行に加えて、定期的な進捗報告、フェイズ1に参加する修士課程学生に向けた自らの学術越境研究経験の発信なども行う。

学術越境研究計画Ⅰ・Ⅱ

◆学術越境研究計画Ⅰ（修士課程1回生を対象）

研究科で行われている分野横断研究、産官学連携、国際連携などの学術越境活動（学術越境プロジェクト）を紹介し、学術越境を実践している学生の体験を知ることにより、自らの学術越境的な研究計画立案のための手がかりを得ることを目的とする。

◆学術越境研究計画Ⅱ（修士課程2回生を対象）

研究科で行われている分野横断研究、産官学連携、国際連携などの学術越境活動を紹介し、学術越境を実践している学生の体験を知ることにより、自らの問題意識に基づいて博士後期課程で実践する学術越境研究計画を立案することを目的とする。

○学術越境プロジェクト

研究科の教員が参画する、分野連携、産官学連携、国際連携を目指す研究プロジェクトのうち、研究科の学生を受け入れることができるものについて「学術越境プロジェクト」としてセンターから支援を行い、学生の学術越境活動を促進する。

研究を他者と語る（修士課程の大学院生全員が参加する「教養知科目」として設定）

専門を共有しない他社に専門術を伝える力としての教養知の涵養を目指し、異なる講座に属する大学院生5名程度がグループとなり、専門的知見を他の分野の大学院生と議論をする。各グループには、学際研究演習の一環として参加する博士課程の大学院生1名が、コーディネーターとして議論をリードする。

② 附属学術越境センター 主催・共催事業

2023 (R5)	主催 (2件)	2023年5月25日(木)16:45～18:15 ・学術越境研究計画計画一般公開講演 Project Planning in Transdisciplinary Research - Public Lecture ◇講演 木下千花(人間・環境学研究科教授)"Film as Performance: Reframing Benshi and Japanese Early Cinema in the Age of New Media" ◇カンサス州立大学学部生との交流会
		2023年11月30日(木)・修了生による講演会 ◇萩原広道先生(大阪大学人間科学研究科行動生態学講座助教2021年3月博士(人間・環境学)取得)
	共催 (6件)	2023年10月26日(木)16:45～18:45・第84回国際交流セミナー ◇講演 ハーバード大学 Mahzarin R. Banaji 教授 Blindspot: Hidden Biases of Good People (ブラインドスポット: 善き人々の隠れたバイアス)
		2023年11月10日(金)13:30～16:30 ・京都大学オープンイノベーション機構シンポジウム「Beyond 2050 プロローグ」～京都大学が描く未来の社会像～ ◇ファシリテーター 齋木潤(人間・環境学研究科教授)
		2023年11月11日(土)14:00～16:00 ・日本基礎心理学会2023年度第2回フォーラム テーマ"Implicit Social Cognition" ◇講演 ハーバード大学 Mahzarin R. Banaji 教授 / ◇企画・司会 齋木潤(人間・環境学研究科教授)
		2023年11月18日(土) ・国際研究集会 L'Asie du Nord-Est entre singularités et convergences dans le rapport aux mondes francophones et à la F/francophonie ◇開会セッション 西山教行(人間・環境学研究科教授)
		2023年12月16日(土)～17日(日)・日本漢字学会第6回研究大会 ◇開会の辞 佐野 宏 大会委員長(人間・環境学研究科教授)
2024年3月13日(水)18:50～20:00 ・第8回若者文化シンポジウム「国際比較からみる若者のアイデンティティと社会参加」 ◇モデレーター 吉田 純(人間・環境学研究科教授・山岡記念財団諮問委員)		
2024 (R6)	主催 (3件)	2024年5月30日(木)16:45～18:15 ・大学院科目「学術越境研究計画」一般公開講演 ◇講演 萩原広道先生(大阪大学人間科学研究科助教)「学術越境って軽やかにできるの? : 発達研究とボードゲーム開発を例に」
		2024年10月17日(木)16:45～18:15 ・大学院科目「学術越境研究計画」一般公開講演 ◇講演 縄田浩志(人間・環境学研究科教授)「そこに学術越境の道があった—社会にとって自分にしかできないことはあるか」
		2024年10月24日(木)16:45～18:15 ・大学院科目「学術越境研究計画」一般公開講演 ◇講演 田代 藍(人間・環境学研究科特定准教授)「学術越境から考える気候変動適応とプラネタリーヘルス」
	共催 (1件)	2024年12月09日(月)10:00～12:00 ・学術越境による社会実装をめざした企業の心理学研究 ◇サービス事業会社2社がおこなう心理学研究について発表 主催:株式会社シンギュレイト、ミイダス株式会社
	学生支援 (1件)	2024年11月8日(金)～9日(土) ・学会参加支援: 南三陸いのちめぐるまち学会 (参加を希望する大学院生に資金援助)
	越境ゼミ (2回)	2024年11月28日(木)16:45～18:15 ・第1回大学院科目「学術越境研究計画」越境ゼミ「学術越境ってなんやねん!?—軽やかな越境に向けたオープンディスカッション」 ◇進行・話題提供1) 森口 武(博士後期課程 文化・地域環境講座 文化人類学) 2) 播磨美有(博士後期課程 東アジア文明講座 中国近現代史)
		2024年12月19日(木)16:45～18:15・第2回大学院科目「学術越境研究計画」越境ゼミ 「学術越境」研究ってどうやるの?—博士課程の実践を踏まえたダイアローグ— ◇進行・話題提供1) 大前裕佳(博士後期課程 認知・行動・健康科学講座 視覚認知) 2) 山崎嘉那子(博士後期課程 文化・地域環境講座 文化人類学)
フィールド エンカ ウンター 学生実習 (2回)	2024年10月21日(月)～22日(火) ・第1回 Field Encounter「芦生」 ◇テーマ「美山町の自然の保全と利用、芦生研究林における研究活動を学ぶ」	
	2024年11月11日(月)～12日(火) ・第2回 Field Encounter「尼崎」 ◇テーマ「人文研と尼崎市立歴史博物館で史料の情報化とアーカイブズを学ぶ」	

フィールドエンカウンター: 1泊2日程度のプログラムで異なる専門を持つ学生が固有の研究フィールドを体験しながらディスカッションすることを通して、相互理解と学術越境に関する様々な気づきを得ることを目指す(費用は学術越境センターが負担)。

③ 学際教育研究部 主催・共催事業

2020 (R2)	共催 (1 件)	2021年2月16日(火)16:00~18:15 ・第5回若者文化シンポジウム「ことばの伝統と現代コミュニケーション」～日本とドイツ～ ◇モデレーター 吉田 純(人間・環境学研究科教授・山岡記念財団諮問委員)
2021 (R3)	主催 (1 件)	「国際的研究のためのワークショップ」 基調講演とQ & A と国際会議でのプレゼンテーションに関するオンライン・ワークショップ 2021年11月20日(土)10:00~12:00 ・基調講演とQ & A ◇志村真幸 先生「学問は「越境」できるのか：南方熊楠を研究する」 (京都外国語大学/2008年学位取得/比較文化史学) ◇岡澤剛起 先生「サイエンスをするということ、海外ですということ」 (神経科学研究所(上海)/2008年総合人間学部卒業/神経科学) 2022年1月4日(月)10:00~15:00 ・国際会議でのプレゼンテーションに関するオンライン・ワークショップ ◇講師 Dr. Iris WIECZOREK (アイリス・ヴィーツォレク博士) (IRIS 科学・技術経営研究所) 人間・環境学研究科所属の博士課程学生・ポスドク等、これから国際的に研究発信をしようとする若手研究者に対するオンラインワークショップ
	共催 (3 件)	2021年10月17日(日)10:00~16:00 ・第74回萬葉学会全国大会 ◇挨拶 小島泰雄(人間・環境学研究科長) ◇講演 内田賢徳(京都大学名誉教授)「天平綺譚一 万葉集卷十六の意匠一」 ----- 2021年10月23日(土)~2021年10月25日(月) Zoom オンライン ・International Online Conferene on Global Transformation of Christian Zionism 2021年10月23日(土) ◇開会挨拶 岡 真理(人間・環境学研究科教授) ◇イントロダクション 役重善洋(京都大学人文学連携研究者) ----- 2022年2月16日(水)16:00~19:20 ・第6回若者文化シンポジウム「現代文化にみる東西の交流」(日独同時通訳) ◇モデレーター 吉田 純(人間・環境学研究科教授・山岡記念財団諮問委員)
	主催 (1 件)	2022年11月19日(土)10:00~12:00 ・「国際的研究に関する講習会」基調講演とQ & A ◇橋谷龍成 先生「「専門性」をもつということ」 (大阪大学)(2016年人間・環境学研究科修士課程修了/結晶化学) ◇Anastasia Fedorova 先生「映画は誰のもの？現代ロシアにおける日本映画の研究・上映をめぐる」 (ロシア国立研究大学経済高等学院/2014年人間・環境学研究科にて学位取得/映画史) ◇総合討論と質疑応答
2022 (R4)	共催 (2 件)	2022年9月30日(金)13:00~17:00 協賛事業 国際ガラス年 2022 ・国際ガラス年 2022 記念シンポジウム ハイブリッド開催 第二セッション「ガラスと私たちの未来」招待講演 ◇田部勢津久(国際ガラス年日本実行委員会委員長・人間・環境学研究科教授) 2022年12月8日(金)~9日(土) ・国際ガラス年 CLOSING CONFERENCE (東京大学 オンライン) 12月8日(金) Welcome Address Setsuhisa ◇ Tanabe (President of Japanese executive committee for IYOG2022) ----- 2023年3月8日(水)16:00~19:20 ・第7回若者文化シンポジウム「日本とドイツに見る異文化の受容と変容」 ◇モデレーター 吉田 純(人間・環境学研究科教授・山岡記念財団諮問委員)